

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475500898
法人名	宮城福祉総合研究所
事業所名	グループホーム フォークソング
所在地 (電話番号)	仙台市泉区野村字野村161-1 (電話) 022-772-6566
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年7月20日

【情報提供票より】(平成19年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	6人, 非常勤 12人, 常勤換算 14.44人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <input type="radio"/> 単独	<input type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(A)23000円 (B)26000円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有() 円	<input type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1200 円

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 81.4歳	最低	73歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松田病院・エバグリーンイズミ おのぞら歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の便の良い住宅地の一角に位置し、水田や雉の親子が見られる緑深い木立も残り四季を感じられる環境にある。「利用者が主人公」の理念を意識し、利用者の意思を尊重したケアに取り組んでいる。利用者は馴染みの職員の支援のもと、持てる強い力・残存能力を発揮し、生きがいや張りを持ち明るく活気ある生活を送っている。調理・配下膳・洗濯たため・畑仕事など日々の活動と、外出の機会を多く取り入れることで、心身の機能回復に大きな成果を挙げている。「お帰り」と迎えてくれる利用者の表情から落ち着いた事業所での生活がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点を踏まえ、職員一同前向きに取り組んだ。項目によっては完全とはいえない点もあるが、改善の可能性に向け今後も継続して努力されることを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>主に計画作成担当者が作成し、管理者が確認をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>これまでに3回開催されている。メンバーに利用者の代表が参加されていることは評価される。事業所便り(プライバシーに配慮して)やボランティア募集などを町内会の回覧板に載せていただいたりと、徐々にではあるが地域に根ざした事業所を目指し努力している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的に担当職員が書面で利用者の様子を報告している。家族が訪問された時には、職員に気軽に相談していただくよう声がけし、意見や不安を気軽に言ってもらえるよう努めている。家族からの意見等は、職員全員で共有しケアに活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域にある一軒の家として近隣の人々との交流を大切に、地域との関係作りの確立に取り組んでいる。運営推進委員会のメンバーに町内会の方に入っていただき、地域に開かれた事業所となるよう努力している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすい文章で表現されている。地域のなかの家として地域社会と共に生きていく思いが込められた理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のユニット会議でケアの方向性の統一を確認し合い、日々の実践に生かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事(夏祭りなど)や近くの小学校の盆踊りなど、地域の行事には積極的に参加し交流が持てるよう努めている。さらにボランティア募集のパンフレットを町内の回覧に載せていただくなど、地域に向けての積極的な発信に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善の見直しを受け、マニュアル整備など具体的な取り組むべき課題の改善に向け、取り組んでいる。毎年一回の外部評価を実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H18年11/16、H19年2/20、5/24と3回開かれている。町内会・地域包括支援センター・家族の代表・利用者代表・職員で構成されている。会議での意見交換を活かして、サービスの質の向上に努めている。早い時期での公表をお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターからの相談に対応している。今年度は中学生の体験研修受け入れの申請をした。継続して事業所側からの積極的な働きかけを今後も期待したい。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、事業所での生活の様子を、担当の職員が手紙できちんと報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>電話また家族の来訪時に、気軽に意見などを話していただくよう説明している。家族会発足の予定はあるがまだ実現されていない。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最近では職員の異動も少なく、なじみの顔に囲まれて安心して生活が送れるよう支援体制が出来ている。また交代によるダメージを最小限に抑えるため、職員全員が利用者一人ひとりに関わり、なじみの関係を築けるよう配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>関連の事業所で研修を受ける体制がある。受講後は会議で報告したり、回覧で全員に周知するなど情報の共有を図っている。また、資格取得希望者には、勤務時間の配慮をするなど向上心をもって働けるよう支援している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員のネットワークを通して親睦会や、勉強会を開いているが、同業者のネットワークには加入していない。</p>	○	<p>外部の同業者と交流し、勉強会や相互訪問を通してサービスの質の向上や職員の気づきを促す機会の場を設けていただきたい。県のグループホーム連絡協議会等のネットワークへの参加もぜひ検討していただきたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と十分に話し合い、さらに本人に見学をして頂きながら職員と馴染みの関係を築き、本人が納得のいく気持ちになるまで、ひたすら傾聴の態度を続け少しでも早く事業所になじめるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から人生の先輩として、物の大切さ・料理などお手本にしたり参考になることなど教えていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや傾聴を意識し、何気なく出た言葉や動きなどから、察知するように心がけている。把握された思いや希望は職員全員で共有する取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人の職員のみ(観察)では見えない部分を全員の目で補足し話し合い、入居者本位の介護計画を目指し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時・状態の変化の見られる時、職員からの気づきの意見が出たときなど、状況に応じて見直しを行い作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの関係は確立されているので、入居者・家族の要望に応じて、通院等の支援など柔軟な対応が欲しいところである。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の方が安心して適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医と連携をはかっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に口頭で重度化した場合の説明をしている。。現時点では看取りへの対応は考えていない。	○	入居者や家族が安心してサービスを利用できるように、重度化した場合の対応について、事業所として対応し得る支援方法を検討して頂きたい。
、高等で重度化					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等書類は整理しキャビネットにきちんと保管されている。職員の倫理綱領にも明示されており、特に排泄や入浴等の介護に当たる時には、プライバシーを意識した節度あるケアを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・就寝時間など本人のペースを尊重し、望んでいる時間・場面に、ケアが提供できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成・食材の買出し・調理・盛り付け・配膳・後片付けなど、一連の流れのいずれかの部分に関わる中で、楽しみを見つけることが出来るよう支援している。会話の妨げにならない音楽を流すなど、食事を楽しくする工夫もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する人・仲良し二人で入られる方・早い時間を好む方など、出来る限り一人ひとりの希望を取り入れ入浴を楽しめるように支援している。拒む方には、一番風呂を勧めたり声かけのタイミングを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生きる強い力(得意な事・好きな事・残存能力・長所)を意識して声かけや場面作りを多く作り、生きがいをもっていただけるよう支援している。洗濯物を干したり、たたんだり、畑作りを楽しんだり、空模様が怪しくなれば布団の取り込みを呼びかけたりと入居者一人ひとりそれぞれの役割・楽しみを活かせる場面を多く作るよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の購入をかねて遠くのスーパーへのドライブ・散歩など希望にそって積極的に声を掛け、出かける機会を多く設けている。季節に合わせたお出かけも多彩である。その日の状況で出られない方には、リビングから見える風景や犬の散歩で立ち寄る近所の人とのふれあいの機会を設けるなど個々人の希望にそった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵をかけていない。前の道路は車の往来が多い事もあり、家族の同意を得て門扉は施錠している。さらに安全管理マニュアルを活用し、職員の周知徹底を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内は整理・整頓を心がけ避難通路を確保し、飲料水は1日おきに汲み替えるなど備蓄類の定期点検を確実に実施している。地域の方々には町内会を通して、口頭ではあるが協力を得られるよう働きかけている。定期的な避難訓練は実施されていない。	○	少なくとも年1回は避難訓練を実施して頂きたい。また夜間を想定した訓練もお願いしたい。入居者の予期せぬ行動や想定外の状況を把握するためにも、ぜひ早い時期での訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を記録に残し、各人の食事の状態を詳細に把握している。さらに栄養士などによる専門的なアドバイスを受けるとよいのではないかと。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からは明るい光が入り、入居者と職員による手作りの七夕飾りや、アジサイの花が季節感を演出している。玄関には木箱を置き、庭で収穫された野菜を並べて、日常的に生活の匂いを感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活の継続性を大切にする取り組みがされている。今まで使っていたベッドや家具、好みの調度品が並び安心して過ごせる居室となっている。入居者同士が互いの居室を訪問する風景もみうけられた。		